

おんかいせき 2 文化遺跡

ふるみつ 古三津マップ



1 古三津コース

1 久枝神社(藤原純友)コース

① 久枝神社



昔、古三津村の大明神に「住吉神社」、南条に「祇園社」、東山に「岩崎神社」があった。いずれも河野氏・松山城主のみならず住民から大切にされていた。明治の初め、神社統合令により、地方の神社は「巖島神社」に集められた。その後、明治12年7月に現在の地に「久枝神社」としてまつられるようになった。

「足仲彦命」「誉田別命」などの神をまつっているよ。



② 藤原純友館跡碑(明神丘)

藤原純友ってどんな人？

平安時代の役人で、伊予の国司としてこの地にやってきた。やがて日振島を本拠地として近くの海賊たちを率いて宇和海や瀬戸内海沿岸を支配し西国地方をあらしまわった(939年「藤原純友の乱」)。

しかし、朝廷軍や地方の武士団に押さえられ、現在の久枝神社の南側大明神山の(明神丘)に石垣を築いて館を造り、防戦に努めたといわれている。この丘の畑に館の石垣などが残っていたが、終戦後この地が墓地になったので、館があった付近に碑を残している。



③ 駒つなぎの松跡石碑(久枝神社境内)



藤原純友が住んでいた館の一角には、馬小屋があり、その近くに「駒つなぎの松」があったといわれている。現在は、平成20年11月、宮前文化遺跡を守る会設立20周年記念として、藤原純友駒つなぎの松跡石碑を久枝神社境内に建てた。

境内には「熟田津の碑」や「藤原純友」にまつわる史跡がたくさんあるよ。



④ すみとも い ど ひさえだじんびゃけいのだい
純友井戸(久枝神社境内)



ふじわらの すみとも つか
藤原純友が使っていたと
伝えられている井戸である。
しょうわ はじ の みず
昭和の初めごろまで、飲み水と
して使われていた。

⑤ こまたていわ ひさえだじんびゃけいのだい
駒立岩(久枝神社境内)



ふじわらのすみとも うま の いわ
藤原純友が馬に乗り、この岩
の上から潮の干潮を見た
と伝えられている。

⑥ やもめづか ひ ちゅうおう ゆうえんちない
孀塚碑(中央ハイツ遊園地内)



へいあんじだい やもめづかさんちよう つか
平安時代、孀塚山頂に塚があっ
た。ふじわらの すみとも う ば つか
藤原純友の乳母の塚と
つた
伝えられている。

つか いま はか
「塚」は、今のお墓のようなもの
だよ。「乳母」は、生まれた時から自分
の乳を与えて育てる養育係の女の
ちち あた そだ よういくがかり おんな
ひと
人のことだよ。



⑦ おにづか とうせんだい
鬼塚(東仙台)



ふじわらのすみとも じゅうしん つか つた
藤原純友の重臣の塚と伝えられ
ているが、なまえ わ かっていない。

じゅうしん けらい なか くらい
「重臣」は、家来の中でも位が
たか いけん い
高く、意見を言ったりアドバイスをし
たりしていた家来のことだよ。



おかだじゅうごろう
2 岡田十五郎コース

⑧ **賞徳記念碑**

明治31年村長乗松熊太郎さんが建設世話人などと計画し、
 岡田十五郎さんの功績をたたえるためにつくられた。
 記念碑には、次のように書かれている。

もし、この人がいなかったら、水田は荒れて、人々の
 みじめな生活はみるにしのびなかったであろう。また、
 村は、苦しくなるばかりで、農業で生活することは
 難しく、今のように繁栄していなかったであろう。



⑨ **岡田十五郎神社**

久枝神社境内の奥にある。文政6年(1823年)
 に完成した久万の台新池の170周年に当たり、
 岡田十五郎さんの功績をたたえ、平成4年10月、
 三津土地改良区が神社を建立した。



おかだじゅうごろう ひと
岡田十五郎さんってどんな人？

岡田十五郎さんは、寛政2年古三津村に生まれ、63才でなくなりました。
 岡田さんは文政年間に久万の台新池をつくり、一生懸命農業を進め、
 村民を困窮から救い出し、繁栄に導いた郷土の先駆者です。

⑩ **岡田十五郎神社縁起**

岡田十五郎神社の境内にある。神社
 を建立したときに、この石碑も建立
 している。



⑪ **儀光寺の墓**

儀光寺には、岡田十五郎さんの
 墓と功績を記した解説板がある。



3 地蔵尊・薬師・お寺コース

⑫ 南條地蔵尊

江戸時代に、古三津の民家普請を致して井戸掘りをしていたところ、土中より掘り出されてまつられている。また、耳の不自由な地蔵さんともいわれ、拝む時にお地蔵さんの背中をたたいて拝んでいた。



「普請」とは家を建築したり修理したりすることだよ。



⑬ 儀光寺



昔儀光寺は由利島にあった。奈良時代に儀光上人が十一面観音像を奉じ由利島にお寺を建てたと伝えられている。

ところが、鎌倉時代に地震による津波のため大きな被害を受け、島民は本尊や仁王門を古三津に再建して移住した。

⑭ 掘出観音



明治の初め頃、千本町にある民家の裏地から石仏が掘り出された。

田中掘出観世音と命名して、お堂を建てて、地元の人たちでまつられている。

①5 ほうろうんじ 法雲寺



むろまちじだい ふるみつ むらでら た
室町時代、古三津の村寺として建て
られた。
りゅうぐうじょう さんもん せいどう
竜宮城のような山門や、青銅によ
る弘法大師立像、巨大な地獄の釜、ミ
ニ八十八か所お砂踏みもあり、人間
の生と死の小宇宙が、法雲寺の境内
に満ち満ちている。

①6 いちはたやくし 一畑薬師

むかし せんぼんちょう まも
昔から千本町の守り
ぼとけ
仏としてまつられてい
たが、じゅうたくけんせつ
住宅建設により、
りよくちたい うつ
緑地帯へ移してまつって
いる。



①7 せんぼんじぞうそん 千本地蔵尊



べつめい まつやまじょうしほうがた じぞうそん
別名を「松山城四方固めの地蔵尊」
という。
ねん まつやまじょう じょうとうしき しほうがた
1602年、松山城の上棟式の四方固
めの餅を古三津のお百姓さん達が拾
ったので、これを持ち帰りまつった。

じょうとうしき たてもの しんちく
「上棟式」とは建物を新築するとき、
あんぜん ぶじ いの おこな ぎしき
安全や無事を祈って行う儀式だよ。
まつやまじょうしほうがた じぞうそん ほとけ
「松山城四方固めの地蔵尊」とは、仏の
ちから まつやまじょう まも まつやまじょう しほう
力で松山城を守るために、松山城の四方
はいち じぞうそん せんぼんじぞうそん ぜん
に配置した地蔵尊のことで、千本地蔵尊、善
しょうじひぎ じぞうそん しょうあんじじぞうそん ちょうしょうじ
勝寺日切り地蔵尊、正安寺地蔵尊、長正寺
じぞうそん よつ
地蔵尊の四つだよ。



かりやばたけ かつせん
4 刈屋畑の合戦コース

伊予の歴史に残る「刈屋畑の合戦」は、有名な史実である。
 1600年9月、徳川方の東軍に味方した加藤嘉明の重臣たちが主人の留守を守っていた。一方、豊臣方の西軍に味方した毛利輝元に恩を感じていた河野氏の遺臣たちは、お家再興と領地奪回をねらって立ち上がり、両軍の間で激しい戦いが繰り広げられた。後に「伊予の関ヶ原合戦」とも呼ばれたこの戦いは、加藤軍の勝利に終わった。
 戦場となった古三津の刈屋畑をはじめ、三津のあちこちにほこらが点在しており、だれの塚であるかははっきりしているものも、していないものもあわせて、地元の人たちに守られている。

かとう びゅうもんじょうじゅうしゅ
18 加藤さん(十門城城主)



かとうぐん ぶしょう ひとり かとう
 加藤軍の武将の一人、加藤
 とおとうみのかみながやす
 遠江守長康及びその他の物故
 者の霊をまつっている。

あべ はしもと
19 阿部さん 橋本さん



あべひょうごのかみ はしもとひょうごのすけ つか
 阿部兵庫守、橋本兵庫介の塚だ
 といわれている。どのような人である
 か、現在のところわかっていない。

わかみや
20 若宮さん



こころざしなか ざんねん さいご
 志半ばにして残念な最期
 をとげた武将と、多くの
 ぶつこしや
 物故者をまつっている。

のとう
21 能島さん

みなもと よし ただ
 源吉忠は
 もとむらかみ すいぐん こん
 元村上水軍の根
 きよち のしま はかた
 居地、能島(伯方
 島とおおしま あいだ
 島と大島の間に
 ある小さな島)
 の城主だったん
 だよ。



こうのがたさんしょう
 河野方三将の
 ひとり のとう
 一人、能島
 たくみのかみみなもとの
 匠頭源吉
 ただ つか
 忠のお塚。



②② ^{ぞね} 曾根さん



^{もうりぐん} ^{ちゅうしん}
毛利軍の中心であった
^{そねひょうごのすけたかふさ}
曾根兵庫介高房をまつって
いる。

②③ ^{ながそで} 長袖さん



この^{たたか}戦いに^ま巻きこまれた
^{ながそで}長袖を着た^{しんかん}神官か^{くげ}公家が^な亡く
なった方をまつっていると
言われている。

②④ ^{むらかみ} 村よさん

^{こうのがたさんしょう} ^{ひとり} ^{むらかみかものかみもとよし}
河野方三将の一人、^{むらかみすいぐん} ^{むらかみやまのかみたけよし} ^{ちょうなん}
村上水軍、村上大和守武吉の長男である。

^{たけはらし} ^{むらかみいちもん} ^{はか}
竹原市に^{もとよし} ^し ^{むらかみ}
村上一門のお墓があ
るよ。この元吉の死により村上
^{すいぐん} ^{めつぼう}
水軍も滅亡したんだ。



②⑤ ^{おき} ^{みょうじん} ^{みなみじょう} 沖の明神(南系)

1600年9月、^{ねん} ^{がつ} ^{かりやばたけ} ^{たたか} ^{せんし}
川屋畑の戦いで戦死した
^{ぶしょう} ^{ろうどうたち} ^{つか} ^{おかだたけし}
武将や郎党達のお塚さんが岡田武氏の
^{やしきない} ^{たすう} ^{しょうわ} ^{ねん} ^{ねん}
屋敷内に多数あった。昭和12年(1937年)
^{ごろ} ^{つか} ^{しよ}
頃それらのお塚さんを1か所にまとめて
^{ほくら} ^{こんりゅう} ^{てあつ}
祠を建立し手厚くまつっている。



②⑥ ^の ^と 能登さん

^{ひょうごけん} ^{ちほうじょうしゅ} ^{もうりぐん}
兵庫県の地方城主、毛利軍
^の ^と ^{たじま} ^{かみ}
の能登但馬守をまつっている。



* ^{ねが} 【お願い】

^{かりやばたけ} ^{しせき} ^{こじん} ^{いえ} ^{なか} ^{ばあい}
「川屋畑」の史跡は、個人の家の中にある場合があります。このコースを
^{めぐ}
巡るときは、^{きよか}
許可をいただくようにしましょう。

ある み つ か 山

5 古三津界わのコース

②7 **天満池擴築記念碑**

てんまやまのふもとに天満池がある。今は、葦が茂っているが、昔は、ため池として使われ、魚も多くいた。昭和9年、擴張工事が行われ、記念碑が建立された。



②8 **JR三津浜駅**

昭和2年（1927年）に創業、今から80年前のことである。化学繊維、みかんななどの出荷が盛んで貨物中心であった。当時20数名いた駅員も今は無人駅となっている。



②9 **御津大明神（元屋敷跡）改築**



厳島神社が現在地に建てられる前は、今の古三津新屋敷方面にあったと言われている。

岡田賢二（忠夫）氏宅にまつられているよ。



30 **宮前消防分団半鐘台跡**

げんざい しゅどう す いっ ち
 現在は 手動 スイッチ の
 さ い れ ん へいせい ねん
 サイレンとなり、平成20年7
 が つ てつきよ ふる みつ
 月に撤去となった。古三津の
 し ん ぼ る せい き い じ ょ う
 シンボルとして 1世紀以上
 じゅうみん みまも つつ
 住民の安全を見守り続けた。



31 **古三津一丁目の通るべ石碑**



たいしやう ねん はまだし こんりゅう
 大正5年、濱田氏により 建立
 された。右大山寺道、左三津濱
 道、右松山道と書かれている。
 みつ はま たいさんじ まつやま みち
 三津浜と太山寺、松山への道し
 るべとなっている。

ながやましようてん みち
 永山商店の道
 きたがわ
 北側にあるよ。



32 **刈屋口の常夜灯**



かりやぐち じやうやとう みやまえじんじやう
 刈屋口の常夜灯は、かつて、宮前尋常
 しょうがっこう よこ かき かこ
 小学校の横、からたちの垣に囲まれて置か
 れていた。昭和43年、その場所にスーパー
 が建つこととなり、現在の場所に移動した。
 せんぜん ほうさく いの こ
 戦前は、豊作を祈ってきな粉のついたお
 にぎりを常夜灯に集まった子どもたちへふ
 るまわれた。せつぶん よる やくよ いの
 節分の夜には、厄除けのお祈り
 を込めて炒った大豆を人目につかぬようお
 供えをしていた。
 あきまつ みこし す あんぜんきがん おこな
 秋祭りには、神輿を据えて安全祈願を行
 っている。建立年月はわからない。

じやうやとう よみち あんぜん かいどうぞ つく
 常夜灯は、夜道の安全のため、街道沿いに作られていた
 んだよ。今でいう街灯の役目をしていたんだって。
 そして、この常夜灯は、金比羅さんとも呼ばれているよ。
 まつ こんびら だいこんげん か
 祭りののぼりには「金比羅大権現」と書かれているよ。

